

## 連載 ギラヴァンツは北九州に何をもたらすのか—第 11 回— ギラヴァンツおよびJリーグと世界, アジアの関わり

北九州市立大学都市政策研究所准教授 南 博

### 1. 2014 FIFA ワールドカップ・ブラジル大会

#### 1.1 ワールドカップ・ブラジル大会開幕

本号が発行される 2014 年 6 月は、ブラジルで開催される「2014 FIFA（国際サッカー連盟）ワールドカップ」で世界中が盛り上がっている時期である。アジアからは、日本、韓国、イラン、オーストラリア<sup>(註1)</sup>の4カ国が出場している。世界最大級のスポーツイベントとも評されるこの大会は、サッカーが世界的スポーツであることを改めて実感させる存在だ。日本は 2014 年 3 月 13 日付<sup>(註2)</sup>の FIFA ランキングで世界 48 位（アジアではイランに次いで 2 位）であるが、はたして今回のワールドカップ本戦ではどのように戦い、私達の感情を動かし、そして関連消費等によって経済面での影響を与えるのだろうか。4 年に 1 度のビッグイベントを楽しみたいものだ。

ただし、このブラジル大会を巡ってはスタジアム整備等の開催準備の遅れなどの問題がしばしば指摘されてきたほか、2013 年以降、ブラジル各都市においてワールドカップ開催反対を訴える市民デモが発生しており<sup>(註3)</sup>、その背景には公共サービスへの不満を持つ市民が多い中でワールドカップ開催準備に多額の投資が行われてきたことへの抵抗感があるようだ。一スポーツファンとしては前述のように「ビッグイベントを楽しみたい」と気楽に考えたいが、2020 年東京オリンピック・パラリンピックというビッグイベントの開催を控える日本としては、国情が異なるとはいえ、今回のワールドカップ開催に伴うブラジル国内外の社会・経済への影響等もしっかりと分析していくことが必要であろう。

#### 1.2 ギラヴァンツ北九州とワールドカップ

さて、この FIFA ワールドカップに日本が初出場したのは 1998 年であり、2014 年大会で 5 大会連続 5 度目<sup>(註4)</sup>の出場となる。Jリーグが開幕したのが 1993 年 5 月であることを考えると、ワールドカップへの出場に Jリーグが果たしてきた役割は極めて大きいといえよう。現在でこそ、日本代表選手の中にヨーロッパの有名クラブ等で活躍中の選手も多数含まれるが、やはり基盤となるのは国内のプロサッカーリーグである Jリーグである。そして、日本代表選手の中には、J1 のみならず J2 のクラブに所属する選手、あるいは過去に J2 クラブに所属していた選手も少なくない。

本稿執筆時点では 2014 FIFA ワールドカップ日本代表選手は発表されていないが、この 1～2 年の日本代表経験のある選手の中から、「2010 年以降に北九州市立本城陸上競技場でギラヴァンツ北九州を相手にプレーした実績」のある選手を挙げると、徳島ヴォルティス（当時）の柿谷曜一朗（2010、2011 年）、柏レイソルの工藤壮人（2010 年）、サガン鳥栖の豊田陽平（2010、2011 年）、

FC東京（当時）の今野泰幸、森重真人（2011年）、愛媛FC（当時）の齋藤学（2011年）、ジュビロ磐田の駒野友一、伊野波雅彦、前田遼一（2014年）らがいる。また、2014年現在のギラヴァンツのJ2での対戦相手に所属し、かつて日本代表で活躍した経験を持つ選手は、川口能活（FC岐阜）、鈴木隆行（水戸ホーリーホック）、巻誠一郎（ロアッソ熊本）、三浦知良（横浜FC）<sup>(註5)</sup>など多数にのぼる。北九州市内で、過去・現在・未来の日本代表選手（＝世界レベルの舞台で活躍する選手）のプレーを市民が間近に見る機会が数多く提供されているのだ。これも、ギラヴァンツが北九州市に存在する1つの意義といえよう。なお、ワールドカップ韓国代表のハン・グギョン選手も、湘南ベルマーレ所属時の2011、2012年に本城でプレーしている。

もちろん今後、ギラヴァンツの選手がワールドカップ等における日本代表選手となることもあり得る。現時点で最も近い位置にいる選手は、渡大生（わたり・だいき）であろう。2012年に高卒ルーキーとしてギラヴァンツに入った渡選手は、2012年に19歳以下（U-19）日本代表、2013年に20歳以下（U-20）日本代表に選出されて海外遠征し活躍している。今後の成長次第では、2016年のリオデジャネイロ（ブラジル）オリンピック日本代表や、2018年のロシアでのワールドカップ日本代表も十分視野に入るであろう。願わくば、このままギラヴァンツの所属選手として日本代表入りし、「北九州」の名を世界のサッカーファンの脳裏に刻み、そして北九州市民に誇りと感動を与えてほしいものだ。そのためには、ギラヴァンツがもっと良い環境で選手がプレーできるようなクラブに自立的に成長する必要がある、ファン・サポーター、そして地域もそれを支えなくてはならないだろう。

なお、渡大生選手のほかにも、現在のギラヴァンツの選手には、池元友樹選手（北九州市出身）など過去に世代別日本代表に選ばれて活躍した経験を持つ選手も数多く在籍<sup>(註6)</sup>している。J2の2014年シーズン序盤において、ギラヴァンツのフォワードは池元友樹選手、原一樹選手のコンビが務める機会が多くなっているが、10年前の2004年5月13日にアラブ首長国連邦（UAE）で行われたU-19日本代表対U-21UAE代表の試合記録を見ると、池元、原の両選手がフォワードとして出場し、また控え選手として鈴木修人選手（現在はギラヴァンツに所属）の名前が見える。世界レベルの選手は、思いの外、北九州市民の身近な所にいる。ちなみにギラヴァンツの柱谷幸一監督、大嶽直人コーチは、選手時代に日本代表（年齢制限のない最上級の代表）としての実績を有する。

## 2. Jリーグ「アジア戦略」によるアジア向けビジネスの積極的展開

世界と密接に関わるJリーグにおいて、近年重視されているのが「アジア戦略」だ。Jリーグ（公益社団法人日本プロサッカーリーグ）は、2012年にアジア戦略室を設立した。Jリーグ（2013）によると、戦略展開の目的として大きく3点が挙げられる。

- アジア全体のサッカーのレベルアップをJリーグが主導して促進し、世界のサッカー市場におけるアジアの価値向上を目指す。
- テレビ放送を利用したアジア諸国での露出拡大や、Jリーグの培ってきたノウハウをアジア諸国（特にASEAN諸国）と共有するための具体的活動を展開する。
- 経済産業省が取り組むクール・ジャパン戦略などと提携し、世界に輸出できる「産業」とし

てJリーグを位置づけ、新たなビジネス機会創出や日本経済の発展に寄与する。

いわばJリーグおよび各クラブ、パートナー（スポンサー）の新規事業開拓を行うことに目的があり、サッカーを切り口としたアジア向けビジネスの積極的展開を指向しているのだ。

実際の活動としては、Jリーグとしては2012年にタイ、ベトナム、ミャンマー、2013年にカンボジア、シンガポールの各国リーグとパートナーシップ協定を締結し、競技力向上等に向けた様々な取り組みを行うとともに、それ以外の国も含めてアジアでのJリーグ放送を開始している。また、協定締結国籍の選手がJリーグクラブと契約しやすい制度改正を行った。これらの諸活動で実績を積むことにより、サッカー人気の高いASEAN諸国におけるJリーグへの注目度が上がり、それをベースとしたビジネス拡大に向けた取り組みが今後進められていくことだろう。様々な課題もあるだろうが、どのように発展していくのか、今後注目したい。

また、Jリーグのこうした活動と前後し、各Jリーグクラブ単位においてもアジアとの連携が活発化している。アルビレックス新潟は、すでに2004年からシンガポールリーグに「アルビレックス新潟シンガポール」を参加させ、人材育成の観点から若手日本人選手に活躍の場を提供している。また、2014年からはカンボジアリーグに「アルビレックス新潟プノンペン」が参加し、こちらはカンボジア人選手と日本人選手の混成で活動している。

一方、コンサドーレ札幌は、2013年シーズン途中に、ベトナムの著名人であるレコンビン選手を期限付き移籍でベトナムのクラブから獲得し、ASEAN諸国出身者初のJリーガーとして公式戦（リーグ戦、天皇杯）11試合で4得点を挙げる活躍をして日本・ベトナム両国で大いに話題になった。レコンビン選手の獲得により、ビジネス面では、ASEAN諸国などでメディア事業の海外展開を進めている住友商事が2013年10月にコンサドーレ札幌とスポンサー契約を結ぶという大きな動きも見られた。サッカーを切り口としたアジア向けビジネス拡大の具体的事例となったといえよう。なお、2013年11月24日に札幌ドームで開催された「コンサドーレ札幌 vs ギラヴァンツ北九州」の試合は、ベトナムのテレビ局で生中継され、「ギラヴァンツ」あるいは「北九州」の名前が期せずしてベトナム全土に流れることになった。レコンビン選手は2013年シーズンのみの契約となったが、コンサドーレ札幌は2014年シーズンにおいてはインドネシア代表のステファノ選手を獲得した。2014年3月31日付け北海道新聞は、「同選手の加入で、インドネシア国内での試合放送が見込まれ、実現すれば放映権料のほか、広告料収入などが期待される。HFC（筆者注：コンサドーレの運営会社）関係者によると、同国内での経済活動の拡大を目指す日本企業などから約2千万円の協賛金があり、獲得に要した経費を除いても約1千万円の利益が得られるという。」と報じている。J1復帰をめざすコンサドーレの戦力・経営に貢献し、日本企業のアジア向けビジネス展開にも貢献できるか、注目したい。

ギラヴァンツには、現時点ではこうしたアジア戦略を打ち出す経営的な余裕は無いであろう。しかしながら近年、北九州市では市と民間企業が連携し、ASEAN諸国などでの海外水ビジネスの展開や各種技術協力などを進めている。今後、ギラヴァンツがサッカーを切り口として地元企業の海外ビジネス展開を側面支援する役割を果たすようになることも期待できる。

なお、Jリーグと世界の関わりを論じる上で大変残念な事件が2014年3月の浦和レッズ主催試合で発生した。差別的内容の横断幕がレッズサポーターによって掲げられ、クラブ側の対応も遅れたのだ。Jリーグはレッズに対し無観客試合の開催という重い制裁処分を科した。サポーター

も含めサッカーに関わる人々は率先して「差別の無い社会」を目指さなくてはならない。

### 3. 補論：「北九州市立大学都市政策研究所 ギラヴァンツ北九州アーカイブ」の開設

話題が変わるが、本連載の前々号（2013年12月号）において、Jリーグクラブと公立図書館の連携について取り上げ、地域のJリーグクラブの各種印刷物やグッズをアーカイブし、歴史を後世に伝えることへの必要性等について言及した。こうした全国の公立図書館での取り組み等を参考とし、筆者の所属する北九州市立大学都市政策研究所では、北方キャンパス3号館に「北九州市立大学都市政策研究所ギラヴァンツ北九州アーカイブ」を2014年3月17日に開設した（写真1）。開設時点では約400点の資料を収蔵し、今後も順次収集を進める予定だ。

このアーカイブは、ギラヴァンツおよび関連する都市政策（例えば新スタジアム整備事業）に関する出版物・資料等の印刷物を将来にわたって体系的に収集・保管し、その歴史・記録を現在に発信するとともに将来に伝承していき、ギラヴァンツ北九州と地域の関わりの学術的・文化的拠点を北九州市立大学に形成し、地域活性化への貢献および関連研究の促進をめざすことを目的としている。

このアーカイブに、ギラヴァンツと世界、アジアの関わりに関する所蔵資料も今後増えていくことを期待したい。なお、アーカイブの当面の公開時間は、月～金曜（大学休業日を除く。）の9～17時となっている。関心のある方は気軽にお立ち寄りいただきたい。

写真1 北九州市立大学都市政策研究所ギラヴァンツ北九州アーカイブの様子



（出所）筆者撮影（2014年3月）

#### 注

- （注1）オーストラリアサッカー連盟は、2006年にオセアニアサッカー連盟からアジアサッカー連盟所属へと移籍している。
- （注2）本稿執筆時点で最新のもの。なお、順位はFIFAホームページ（<http://www.fifa.com/>）による。
- （注3）例えば、沢田啓明「ブラジルW杯、FIFAが焦る開催準備の大幅遅れ」日本経済新聞Web『サッカー王国通信』（<http://www.nikkei.com/sports/soccer/>）などを参照。
- （注4）FIFAワールドカップは4年に1回開催される。1998年はフランス、2002年は日本と韓国（共同開催）、2006年はドイツ、2010年は南アフリカで開催された。
- （注5）三浦知良選手は日本代表として数多くの実績を有し、FIFAワールドカップのアジア予選でも活躍しているが、本大会への出場経験はない。他に例示している川口、鈴木、巻の各選手は本大会に出場経験がある。
- （注6）渡大生、池元友樹に加え、2014年所属選手としては、大谷幸輝、松本拓也、星原健太、田中優毅、寺岡真弘、鈴木修人、風間宏希、原一樹などの各選手が世代別日本代表経験を有している。

#### 参考文献

Jリーグ（2013）『2013 J.LEAGUE PROFILE』

北海道新聞、2014年3月31日朝刊「コンサ、インドネシアに熱視線 有望選手獲得など収益増へ新戦略」